

7 消防用設備等の活用状況

【関連章第7章】

事例 「防災センター勤務員を中心として、スプリンクラー設備の補助散水栓を活用し初期消火並びに安全な避難誘導を講じた火災」

出火時分 6月 18時ごろ

用途等 複合用途（スタジオ・事務所等） 耐火造 20/2 延 100,000 m²

防火管理 該当選任あり 消防計画あり 統括防火管理者選任あり

被害状況 建物部分焼 1棟 天井 4 m²、外壁 2 m²、エアコン室外機等焼損

概要

この火災は、複合用途建物 14階のバルコニーから出火したものです。

出火原因は、冷暖房機の定速圧縮機内部で何らかの原因により絶縁不良が発生し、層間短絡及び地絡が継続することで発生した火花がオイルに引火し出火したものです。

防災センター勤務員が自動火災報知設備受信盤から「15階注意報」を、さらに1分後に「火災報」の受信を確認したことから14階を確認に行くと、14階バルコニーのエアコン室外機付近が燃えているのを発見しました。その後駆け付けた別の防災センター勤務員と協力し、煙流入を防ぐため防火戸を閉鎖し、バルコニー開口部を開放させたのち、スプリンクラー設備の補助散水栓を活用して、消防隊到着まで消火活動を実施し延焼拡大を阻止しました。また、防災センター勤務員が手分けして各階の在館者に対し避難誘導を行い、放送設備を活用して館内一斉放送で避難を促すことで、約300人を混乱させることなく屋外へ避難させました。

教訓等

本火災においては、防災センターの自衛消防班長がリーダーシップを図り、的確な指示のもと各班員が迅速な初期消火で延焼を阻止し、安全確実な避難誘導に努めました。大規模複雑化する建物が増加することに伴い建物を安全に利用するためには、防火管理体制に万全を期する必要があります。万が一火災が発生した際に被害を最小限にとどめるべく、消防用設備等の有効活用や防災センター勤務員等が消防計画に基づいた迅速かつ的確な自衛消防活動を行うことが重要です。



写真 7-1 室外機の状況



写真 7-2 補助散水栓の使用状況